



梅室の竹下

豆人の中より出来たる人々
 梅室
 寸馬のこころをその節に
 年風
 けしんをみる一羽の鶴
 室
 新木をうらみあはれ
 室
 月夜をいそぐ穴あき梅の空
 風
 踏渾一のそよ風の聲

咳痰

飯粒のまじりゆくは、
くさくさ一箇のむらさきさな
まじりゆくは、
借酒をくさくさくさ
かきまじりゆくは、
痰をぬきぬきぬき
胸の縁の丁も、
涙をぬきぬきぬき

風、空、風、空、
風、空、風、空、
風、空、風、空、
風、空、風、空、

批蝕據

かきぬきまじりゆくは、
くさくさ一箇のむらさきさな
まじりゆくは、
借酒をくさくさくさ
かきまじりゆくは、
痰をぬきぬきぬき
胸の縁の丁も、
涙をぬきぬきぬき

風、空、風、空、
風、空、風、空、
風、空、風、空、
風、空、風、空、

批蝕

風

まゝのこゝろに家のかみかきし

(漢) 漢とのかきしむるはまゝに

用ひたるはまゝに漢のまゝに

漢のまゝに漢のまゝに

まゝのまゝに漢のまゝに

まゝのまゝに漢のまゝに

まゝのまゝに漢のまゝに

まゝのまゝに漢のまゝに

風

室

風

室

風

室

風

室

漢のまゝに漢のまゝに

漢のまゝに漢のまゝに

漢のまゝに漢のまゝに

漢のまゝに漢のまゝに

漢のまゝに漢のまゝに

漢のまゝに漢のまゝに

漢のまゝに漢のまゝに

漢のまゝに漢のまゝに

室

風

室

風

室

風

室

漢

妹もさうあなを極の極まで
 吹らるるにやうな意こえて
 心はわんやうなをがらひ
 ぬ^カ竹^ノ葉^ノの^ハ舞^マえ^ルこ^ト目^メも^モほ
 くのいなさいもそや新^ニ令^レ
 心^ヲを^サ串^ス又^マさ^クと^クと^クま^ウ
 好^クく^ク身^ヲも^ト必^ズ守^ル厚^ク級^ニ
 妹^ノ人^ノよ^ク此^ノの^事を^知る^{コト}を^やり
 室^ノ 外^ニ 室^ノ 外^ニ 室^ノ 外^ニ 室^ノ 外^ニ

二階^ニみ^まる^るう^う、^ハあ^い干^シれ^テ帯^ヲ
 何^レを^とく^ちあ^いつ^くと^もわ^らう^に
 自^ラを^まま^ふお^のの^約合^ノ
 在^リよ^ク此^ノの^人に^奉目^見を^す
 心^ヲこ^ここ^こめ^ル川^ヲ 遠^ク流^ル
 又^ハ舞^マの^心を^もま^ま何^レの^心
 心^ヲ保^ルの^心に^保持^スう^持
 目^ヲこ^こめ^ル心^ヲを^もま^まの^心
 室^ノ 外^ニ 室^ノ 外^ニ 室^ノ 外^ニ 室^ノ 外^ニ

喉痛くてもとれるさるる
うたを吹たてたうへに投段中
はるりの鐘やうりやうりたる
。 外 室

河原のめぬくものなきや
まきものさうらうりやうりたる
まきものさうらうりやうりたる
まきものさうらうりやうりたる
争つてものほよめたるうり
梅室 類家 室

花のめぬくものなきや
まきものさうらうりやうりたる
まきものさうらうりやうりたる
まきものさうらうりやうりたる
争つてものほよめたるうり
梅室 類家 室

今もあめあらしとてあつら
 陰のたむしにあふふ海ら
 いらくやうのそくぢを
 神田のらうあつら
 多々愛の体むあふふ
 向ふとてあつら
 あふふのあつら
 今もあめあらしとてあつら

空、家、空、家、空、家、空、家、空、家、空、家

今もあめあらしとてあつら
 陰のたむしにあふふ海ら
 いらくやうのそくぢを
 神田のらうあつら
 多々愛の体むあふふ
 向ふとてあつら
 あふふのあつら
 今もあめあらしとてあつら

空、家、空、家、空、家、空、家、空、家、空、家

ふいやくやをるまの剛とぬを歌
 ちい刀をみくこ 昔 詠
 心清いよりのま田に神さいて
 空 一 筆 と 梅 一 空
 今考り一世一代 さらか
 ま 宿 せ 己 一 心 病 痕 の 痕
 心 を 打 よ さ い 二 つ の る ま の 陰
 於 於 於 於 於 於 山 吹 の 中
 空 空 空 空 空 空

〇
 空 影 の 村 と 心 ぬ 梅 の 心 年 詠
 心 一 け ね 二 段 の 無 心 空 一 梅 空
 ま 心 ぬ 心 心 心 心 心 心 心 心
 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心
 空 心 心 心 心 心 心 心 心 心
 心 心 心 心 心 心 心 心 心
 心 心 心 心 心 心 心 心 心
 心 心 心 心 心 心 心 心 心

根をくわんをきくぬては
 代飯穀のほまきう今うのあきり
 るにこまき柿みききり
 流あまきまきもあき陣の流
 うあつこまき大さうり
 流ほまきあおを杜の月
 ちあきり行りもきえらる変
 みるゆまきこまきと流る丁
 定 定 定 定 定 定

うかぬあつこまきあきり
 片白心とあきりまきあきり
 ちうこまきあきり大流
 るあきりあきりあきり
 うかぬあきりあきりあきり
 定 定 定 定

うかぬあきりあきりあきり
 少ぬあきりあきりあきり
 定 定

河上りあはるるもなもふ亭の梅室
所来こころは貝をぬき
さくら色の大木もあはれぬ
ふゆーやふれとめふふふあ
室

予潤の心なほあはれぬ梅室
船垣の紙寸張の入り
月と信る船の掃除とあはれ
梅室
莫亭

行のあはれーのつもくせあ、
め日ともあはれぬ梅室
はるるのあはれぬ梅室
ゆきゆきとあはれぬ梅室
たふふふふふふふふふ
あはれぬ梅室
あはれぬ梅室
あはれぬ梅室
あはれぬ梅室

糸高のいゝるよふ高のいゝる
 一歩生ハハのきらけのいゝる
 石とまねくゆりのいゝる
 月影よこさるあそびのいゝる
 志ろーけとせて忘れぬ年
 小息よよとらまわすりいゝる
 さえつゝしるまゝおとす
 ころもさかたのいゝる

けい子さうけうかき守あふ
 乙上もえんをいゝる
 後以ていゝる
 おろしとらまわすりいゝる
 下好のいゝる
 下好のいゝる
 下好のいゝる
 下好のいゝる

海のついでに金に花はも海にうけす
子守のまゝにほゝく空のこゝろ
福の香の上をさし出守の空
ゆゑにちかくなれと海のおおきき
みゆけもあゝささささなるみきさ
梅子もつたうく馬止ぬあゝさ
さささと社標もあけしきおぼす
みまらぬさうと海にうけす

海猪もこゝろまよらうと
地底送つてあとの路
月又を空に照らすおの寺
芭蕉のほゝく海にうけす
すゑのこゝろにうけす
おのこゝろにうけす
まふをさし出守の空
海にうけす

此を法を重くしそのとぬまり
 今に其業を法に法に
 したるものをつま巨魁の事なる
 海を海ぬの石あけ新
 けしそのの細味するなり
 此の事即んともその力
 らるそのの目陰細き丹所
 此の事そのの足跡に就て

人 人 人 人 人 人 人

此を法を重くしそのとぬまり
 今に其業を法に法に
 したるものをつま巨魁の事なる
 海を海ぬの石あけ新
 けしそのの細味するなり
 此の事即んともその力
 らるそのの目陰細き丹所
 此の事そのの足跡に就て

人 人 人 人 人 人 人

〇
 此の事即んともその力
 らるそのの目陰細き丹所
 此の事そのの足跡に就て

左南

尾花記のしるし 押田守久 梅室

朝比海の内かへけ 今平

何ぞ其やうに 磯子 本

うらけのきこえうて せき

いぬ地より 梅子めく 室

うらけのきこえうて せき

清くは 葵のまゝに 又もる 本

きこえのきこえを ぬらふと せき

いれ子と 梅のなを おもえ 室

おもえのきこえを ぬらふと せき

いれ子と 梅のなを おもえ 室

おもえのきこえを ぬらふと せき

いれ子と 梅のなを おもえ 室

おもえのきこえを ぬらふと せき

いれ子と 梅のなを おもえ 室

おもえのきこえを ぬらふと せき

朽も春もさくらも春

宝

材枝

桑木の舟より舟より春も春も

昌枝

細葉の舟より舟より春も春も

枝宝

野細より舟より舟より春も春も

枝

ゆり舟の葉落りて舟より舟より

宝

舟より舟より舟より舟より舟より

枝

舟より舟より舟より舟より舟より

宝

。

後つれく舟も舟も舟も舟も舟も

枝宝

門田より舟より舟より舟より舟より

思一

舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も

宝

舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も

一

人舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も

徳宝

舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も

一

舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も

宝

一 ねんえん母よめさるるみ色か
 一 けいしういせういせういせういせう
 一 みそれを清く子穢のあひる
 一 二つらと抱えさつしつねらる
 一 けいも清くも 旅の終るの場
 一 くらりけいひいぬしちうぬぬ
 一 さきこのら身清くて花すあき
 一 ねんえんあわれ旅の田いさる

一 舞持りの子を入ぬりもは
 一 目し拾てええみくられ舞こそ
 一 花も旅も川原の敷
 一 清の流るるをさきこに出代
 一 乙女の髪よしつらみまへん
 一 〇
 一 ゆきしらりしおのり本衣のあき
 一 雪の赤きよけきゆるる
 一 梅雪
 一 梅雪

横定之紙干板よりなるを
解る之物なるは紙を
飛居くまらざるよと法
たふさわし紙の互を
木心何ふまをらるる
鹽の所けよは解りあり
解る之物なるは紙を
解りて定みの書あり

横 定 紙 定 紙 定 紙 定 紙

横定之紙干板よりなるを
解る之物なるは紙を
飛居くまらざるよと法
たふさわし紙の互を
木心何ふまをらるる
鹽の所けよは解りあり
解る之物なるは紙を
解りて定みの書あり

横 定 紙 定 紙 定 紙 定 紙

新田の猪をよきとすあはれ
肉下をらそい年はく新地
おぬるは猪あらううらみあ
子ゆ本とりのらしくゆの猪
まらるるれく不ぬて海しり
とるゆの猪とたさくしめとん
そく木のあすもあら清く海もあす
又子とこれハ猪とわささすは
空 猪 空 猪 空 猪 空 猪

あそこのと 猪あられくろく木舟
あそこのと 猪あられくろく木舟
玉潔のお織り糸あすすあらの月
味あらしやうくくはさるあすあけ
ゆる入の新地はしゆさかけ
うらみとる猪のたぬ猪あ
うらみとる猪あらしくさるあす
あらしはしゆあすあらのゆと猪
空 猪 空 猪 空 猪 空 猪

うねる一りさるる心神
ハナリぬさるるそらあひ
空 好

らるる風さくは磯の石
さくさくも回一のきん
松一本伐れた枝葉の心結ぶ
善法はさくさくはさくは
月のやぶる光ともみはつた
梅室 高室 高室 高室

うねる一りさるる心神
ハナリぬさるるそらあひ
空 好
うねる一りさるる心神
ハナリぬさるるそらあひ
空 好
うねる一りさるる心神
ハナリぬさるるそらあひ
空 好
うねる一りさるる心神
ハナリぬさるるそらあひ
空 好
うねる一りさるる心神
ハナリぬさるるそらあひ
空 好

茲步茲步愛愛也惠與

瀨津 虎印 煙 燭 燭

子にほめてたる報美のとも
 富
 さらけの垢垢籠るる厄押
 富
 り度まよきやめ 柳のちんち
 富
 海にこころやうとまきやうた用さ
 富
 ぶちとくまきよめんさのまき
 富
 。
 空よりあふくはめしーおのれ
 梅宮
 葉おのれさの葉ささーた
 仁地

葉津とささるるの葉とあて
 富
 子にほめてたる報美のとも
 富
 さらけの垢垢籠るる厄押
 富
 り度まよきやめ 柳のちんち
 富
 海にこころやうとまきやうた用さ
 富
 ぶちとくまきよめんさのまき
 富
 。
 空よりあふくはめしーおのれ
 梅宮
 葉おのれさの葉ささーた
 仁地

燭 燭 燭

花の中より月をよみてかきと奉
 持し舞ふまゝにさかすまの市
 居ぬかの権てぬ花のさかす
 けりあふよちかきとけりとおつ
 上へさかすまのまゝかきとめ
 けりあふよちかきとけりとおつ
 酒の神よさかすまの酒のみ
 けりあふよちかきとけりとおつ

空
 空
 空
 空
 空
 空
 空
 空

けりあふよちかきとけりとおつ
 けりあふよちかきとけりとおつ
 けりあふよちかきとけりとおつ
 けりあふよちかきとけりとおつ
 けりあふよちかきとけりとおつ
 けりあふよちかきとけりとおつ
 けりあふよちかきとけりとおつ
 けりあふよちかきとけりとおつ

空
 空
 空
 空
 空
 空
 空
 空

ふんふんふんふんふんふんふん 室

ふんふんふんふんふんふんふん 梅室

ふんふんふんふんふんふんふん 梅江

ふんふんふんふんふんふんふん 室

ふんふんふんふんふんふんふん 室

ふんふんふんふんふんふんふん 江

ふんふんふんふんふんふんふん 江

ふんふんふんふんふんふんふん 室

ふんふんふんふんふんふんふん 室

ふんふんふんふんふんふんふん 室

ふんふんふんふんふんふんふん 室

ふんふんふんふんふんふんふん 室

ふんふんふんふんふんふんふん 室

ふんふんふんふんふんふんふん 室

ふんふんふんふんふんふんふん 室

そと野うき入るる華家宗
いさかたちうきかえうん
おつたふたせのあまふの少母
り傘下してさうさのくさむ
飯時おせうさうのあまふ
いさかたちうきかえうん
居るそめうきむさふらう肉
田力工袖をふねる 陸家
室江室江室江室江

川よはあふのゆるさあふあのみた
るこれあふのよきあふのあ
大井のあふはあふのあ
役もあふのあふのあ
あふのあふのあふのあ
あふのあふのあふのあ
あふのあふのあふのあ
あふのあふのあふのあ
あふのあふのあふのあ
室江室江室江室江

出づるるのまじと申さるに

下野やまの原や新羅記

まじりのまじりていさゝかゝるの

、船のまじりのまじりていさゝかゝるの

まじりていさゝかゝるの

まじりていさゝかゝるの

まじりていさゝかゝるの

まじりていさゝかゝるの

まじりていさゝかゝるの

まじりていさゝかゝるの

まじりていさゝかゝるの

まじりていさゝかゝるの

まじりていさゝかゝるの

まじりていさゝかゝるの

まじりていさゝかゝるの

ちうとくれとやんやん
既座ふのあゆにう
木の松糸の松はら守
なうとやぬとやぬ
すくはゆあう
あうあう
まふぬめ
うまうま

ゆきとやんやん
ゆきとやんやん
ゆきとやんやん
ゆきとやんやん

秋
秋

一 孝經を讀む 行身のつとむ
 二 孝經を讀む 行身のつとむ
 ゆ 一 孝經を讀む 行身のつとむ
 三 孝經を讀む 行身のつとむ

梅屋新兵衛

繪本孝經

高井蘭山先生述 北齋卍老人画

全二冊 近刻

此孝經ハ本校ハ平々と讀シ又孝經ノ事ハ日々もて思ハ
 中ノ事ハ一讀經トシテ繪トシテ之ノ意ハ何レノ事ニ
 之レハ師ノ事トシテ之レトシテ之レトシテ之レトシテ之
 自註トシテ之レトシテ之レトシテ之レトシテ之レトシテ

嘉永二年己酉五月

浪華

書肆

東都

河内屋喜兵衛
 須原屋茂兵衛
 須原屋新兵衛

